

25年8月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 7月20日～ 8月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
8月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		25/8月	9月	10月
伐採動向	スギ	50.0	0.0	28.6
	ヒノキ	12.5	25.0	12.5
	カラマツ	16.7	33.3	33.3
	エゾ・トド	50.0	0.0	100.0
出荷・販売動向	スギ	57.1	14.3	21.4
	ヒノキ	12.5	25.0	25.0
	カラマツ	16.7	0.0	0.0
	エゾ・トド	50.0	50.0	50.0
手持立木在庫動向	スギ	8.3	8.3	10.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	16.7	33.3	33.3
	エゾ・トド	50.0	50.0	50.0

伐採動向は、スギは8月の大きなマイナスから9月のゼロを経て10月にはプラスに、ヒノキは8月のマイナスから9、10月はプラスに、カラマツは3ヶ月連続のプラスに、エゾ・トドは8月の大きなプラスから9月のゼロを経て、10月は大きなマイナスに。

出荷・販売は、スギは8月、9月のマイナスから10月はプラスに、ヒノキは8月のマイナスから9、10月は連続してプラスへ、カラマツは8月のマイナスから9、10月は横ばい、エゾ・トドは8月から連続して3ヶ月の大きなマイナスに。

手持立木在庫は、ヒノキは横ばいで推移、スギ、カラマツは連続して3月ともプラス基調推移、エゾ・トドも連続して3月ともプラスに。

モニターからのコメント

(伐採動向)・カラマツ、トドマツは間伐中心、需要増なのでやや増加傾向、翌月以降国有林カラマツ生産請負中心になるためトドマツ減少。・伐採は主伐・間伐ともひかえめ、カラマツ丸太不足気味で立木買い入れ積極的。・ヒノキ皆伐を中心に、委託の間伐も実施。

(出材・販売動向)・カラマツ、トドマツとも一般、合板は動き良いが、製紙工場が減産のため今月中旬からチップ受け入れが1カ月半ストップするので販売がやや減少。・スギ、ヒノキは市場への出荷が減少している模様。現在もB材の出荷先がないところ。

(手持ち立木在庫)・立木在庫はトド中心に国有林公売物件購入予定でやや増加。